

学校教育目標 未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

～ やさしい子:やさしいっばい かしい子:かっばい たくましい子:やる気っばい～



和土小だより

〒339-0033 さいたま市岩槻区黒谷1353番地 TEL048-798-0208 / FAX048-798-8730

学校Webページ: <https://wado-esaitama-city.ed.jp/> Eメール: wado-e@saitama-city.ed.jp

さいたま市立和土小学校

令和8年2月27日(金)

3月号

児童数 148名

互いのよさを認め合う3月

校長 中野尾 奈都江

少しずつ春めいて暖かい日が増えてきています。校長室前のじゃぶじゃぶ池も凍らなくなり、暖かい日差しを受けてキラキラと光っています。じゃぶじゃぶ池で冬眠していたカエルも、そろそろ動き出す頃でしょうか。

中庭には、冬を超えたハウレン草やキャベツが青々と育っています。そして、寒い日も雨の日も、カエル池の後ろの花壇で、黄色い菜の花はずっと咲いていました。

この冬は、イタリアのミラノ・コルティナで、冬季オリンピックが開催され、世界中が大きな感動に包まれました。冬季オリンピックならではの、色々な競技をテレビで見ることができました。どの競技でも、選手の真剣な目、集中した表情から、選手の気持ちが伝わってきました。競技の後の笑顔もあれば、悔しい表情の選手もいました。スキーの高いジャンプ台で順番を待つ選手の背中、クロスカントリースキーの高低差のある長いコースを懸命に走る姿、フィギュアスケートの演技など、全てに「挑戦」への意気込みを感じました。

そして、学校には、日々「挑戦」する子ども達の姿があり、いつも感動しています。生活科のコマ回しを何度も回そうと頑張る様子。体育で跳び箱の新しい技に何度もチャレンジする姿。サッカーボールを操作したり懸命に追いかけてたりする姿。全校での長縄集会では、どの学年もクラスでの練習の成果を発揮していました。縄を回す子と跳ぶ子の息がぴったりと合っていました。跳ぶ順番を待っている子も、跳ぶタイミングに合わせて首を動かしたり、数を数えたりといった一体感に包まれていました。

「感動」は挑戦した自分、励ましてくれた友達、一生懸命に練習し続けたこと、全部で感じるものです。それが、オリンピックの選手の表情や涙に表れていました。本当に色々な選手がいます。競技後の選手の姿から、オリンピックの精神である「友愛」を感じました。ともに本気で競った相手だからこそ、他国の選手も互いの健闘をたたえ合ったのだと思います。だから観客は、競技だけでなく、競技後の選手の姿にも感動をするのだと思います。

「一生懸命に取り組む。」「相手のよさを認め合い、高め合う。」これは学校の子どもの姿と一緒にだと思いました。そういう3月にしていきたいと思っています。

「自分の頑張りを認める。友達の頑張りを認める。そして、さらに挑戦していこうと前向きな気持ちになる。」それは、次のステージ、次の学年、次の学校でジャンプする土台となります。どの子も、怖れずに、ジャンプしてほしいと願っています。



咲き続けた菜の花